体験・研修希望者の受入先情報の整備・リスト化

1. 取組の背景

（1）新規就農までのプロセス

就農相談 ⇨ 産業体験 ⇨ 就農決意 ⇨ 農業研修 ⇨ 新規就農

新規就農者を安定的に確保するためには、農業が自らの適正に合うか見極める体験や栽培技術を身に付けるための研修を受ける就農予備群を確保することが必要。

（2）松江地域での取組状況

研修受入先の確保のため、担い手育成協定＊の締結を進めているが、品目が定まらないまま研修を始める者や、少量多品目の栽培希望者が増加し、特定の経営体に負担が集中。

そのため、新たな研修受入先の確保や体制整備が喫緊の課題。

＊担い手育成協定
自営就農希望者が、県や市町村と協定を締結した経営体で研修をしながら、独立に向けた農業技術等を習得し、独立自営就農するための制度。
松江地域の協定先は３経営体

2. 取組の経過及び概要

（1）研修対象品目の絞り込み

市やJAと協議し、研修を呼びかける品目を「松江市重点推進品目（24品目）」に決定。

（2）松江市農業士会＊との連携

各会員へ研修生受入の現状を説明し、受け皿確保への協力を依頼。

研修希望者と受入先のマッチングを円滑にするため、経営の特徴や研修指導方針等を紹介した「研修生受入先情報」を作成。

就農相談会、インターンシップなどで情報提供し、研修可能な品目や受入先等を紹介。

研修生受入先情報

＊農業士
優れた農業経営を行いつつ、新規就農者等の育成に指導的役割を果たしている農業者を知事が認定。
Ｒ６松江市農業士会会員数14名

3. 取組の成果

（1） 研修生受入先の増加

（R5）12名（稲3、園芸8、畜産1）の会員が研修生を受け入れ可能とし、研修生受入先情報をリスト化。

⇩

（R6）受入先の情報を農業士以外の生産者まで拡大し、受入先が16名に増加。

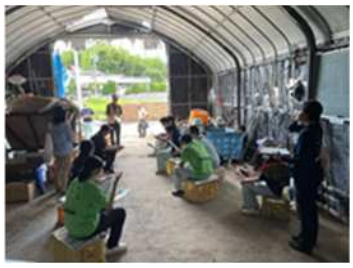
（2）研修経由雇用就農者の増加（農林大学校）

（R5）農林大学校学生と農業士の交流会で受入経営体の情報を提供。

参加者9名のうちが6名が会員のほ場で研修や農作業体験を実施。

⇩

（R6）交流会参加者2名を含む4名の卒業生が松江地域で雇用就農。



農大生との交流会の様子

（3）松江地域から安来・出雲・雲南地域への波及

受入先情報作成の取り組みを東部農林水産振興センター全体に拡大。

農業士 渡部　旭氏

学生たちの「農業にふれたい」「農家になりたい」という気持ちを大切にしたいので、毎年、研修生を積極的に受け入れています。研修生が描く夢の実現に向け、全力でサポートします。

4. 課題と今後の取組方向

（1）市重点推進品目を対象とした受入体制の拡充。
（2）少量多品目の研修に対応するため、複数会員のほ場を数か月おきに移動しながら実施する仕組みの構築。
（3）受入実績のある経営体を順次、担い手育成協定の締結へステップアップ。
（4）市重点推進品目のうち、特に生産拡大を目指す品目を対象に「包括的就農パッケージ」＊の作成。それに係る研修体制の充実、農地情報等を収集して関係機関で共有するなど、サポート体制の強化が必要。

＊包括的就農パッケージ
経営モデルや研修体系、農地情報など、研修から就農、その後の経営までをイメージできる情報

〈問合せ先〉東部農林水産振興センター農業振興部　松江地域振興第一課　0852-32-5685